千葉市感染症発生動向調査情報

2022年 第17週 (4/25-5/1) の発生は?

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数 17週 16週 15週 14週 小児科 18 17 18 17 眼科 4 5 5 5 上段:患者数 下段:定点当たりの患者数 インフルエンサ゛ 26 28 28 27 基幹定点 「定点当たりの患者数」とは 1 1 1 1

		坐针化点		•	, i	ı	<u>l</u>
辞	·告患者数/報告定点数						
定		Ŧ		葉		市	千葉県
点	感 染 症 名	注意報	4/25-5/1	4/18-4/24	4/11-4/17	4/4-4/10	4/18-4/24
		,,_,	17週	16週	15週	14週	16週
	RSウイルス感染症		0	0	0	0	0
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	咽頭結膜熱		0	0	0	0	3
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.02
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0	6	1	1	27
			0.00	0.33	0.06	0.06	0.21
	感染性胃腸炎		77	127	113	68	585
			4.53	7.06	6.28	4.00	4.53
小	水痘		3	0	1	1	5
児			0.18	0.00	0.06	0.06	0.04
科	手足口病		0	0	0 00	0	9
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.07
	伝染性紅斑		1	1	_	0	3
			0.06	0.06	0.00	0.00	0.02
	突発性発しん	↓	12	15	11	7	53
			0.71	0.83	0.61	0.41	0.41
	ヘルパンギーナ		0 00	0 00	0.00	0	4
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.03 5
	流行性耳下腺炎		0.00	0.00	0.00	0.00	_
イン	インフルエンザ		0.00	0.00	0.00	0.00	0.04
フル	1ンノルエンサ (高病原性鳥インフルエンザを除く)		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
770			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
眼	急性出血性結膜炎		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
料			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
דיו	流行性角結膜炎		0.00	0.00	0.20	0.00	0.12
	クラミジア肺炎		0.00	0.00	0.20	0.00	0.12
	(オウム病を除く)		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	細菌性髄膜炎		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
₩	柳宮 圧腿戻災 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
基幹定点			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
定	マイコプラズマ肺炎		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
点			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	無菌性髄膜炎		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	感染性胃腸炎		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	(ロタウイルスに限る)		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
			5.50	5.50	5.50	5.50	5.50

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患: 1,460 例 ※ 新型コロナウイルス感染症1,453例は数のみ

_=	- <u>- ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~</u>	٠,	100 p3	水 初至ニック / 100 /				
	病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
	結核	女性	20歳代	IGRA検査	カルバペネム耐性 腸内細菌科	男性	60歳代	病原体の分離・同定 及び薬剤耐性の確認
	結核	男性	80歳代	病原体遺伝子の検出				
	結核	女性	90歳代	病原体等検出等	劇症型溶血性	男性	50歳代	病原体の分離・同定
	レジオネラ症	男性	70歳代	病原体抗原の検出	レンサ球菌感染症			
	梅毒	女性	20歳代	血清抗体の検出	新型コロナウイルス感染症	男女	0歳代-90歳代	病原体遺伝子の検出等

[・]第17週は、結核3例(55)、レジオネラ症1例(3)、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症1例(6)、劇症型溶血性 レンサ球菌感染症1例(1)、梅毒1例(10)、新型コロナウイルス感染症1,453例(53,279)の発生届があった。

^{※ ()}内は2022年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第17週のコメント

く突発性発しん>

前週より減少し、0.71となった。過去10年の同時期と比べるとほぼ平均レベル。区別の発生状況は、若葉区(1.50)で最多で、同区の6-11か月で多く発生報告があった。

- 「過去10年との比較グラフ」及び「区別の発生グラフ」はWebSiteでご覧いただけます。
- 過去10年との比較グラフ

https://www.city.chiba.jp/hokenfukushi/iryoeisei/khoken/kkagaku/idsc/documents/graph2022.pdf

区別の発生グラフ

https://www.city.chiba.jp/hokenfukushi/iryoeisei/khoken/kkagaku/idsc/documents/graph ward2022.pdf